

令和元年度 第1回 横浜市芸能センター指定管理者選定評価委員会 会議録

- 1 日 時 令和元年8月6日(火) 10時30分～12時00分
- 2 場 所 横浜市芸能ホール小ホール(のげシャール)
- 3 出席者 上杉 幸雄 委員、垣内 恵美子 委員、西田 由紀子 委員、藤崎 晴彦 委員
- 4 欠席者 無し
- 5 傍聴者 無し

6 議事内容

議題	1 平成30年度業務評価
委員意見等	<p>1 定足数の確認 委員数4名のうち4名の出席により定数を充足しており、会議の成立を確認した。</p> <p>2 本委員会の公開・非公開について 横浜市の保有する情報の公開に関する条例第31条及び横浜市芸能センター指定管理者選定評価委員会運営要綱第9条に基づき、公開とした。</p> <p>3 議題「平成30年度業務評価」 (1) 評価関係資料について ア 評価資料及び評価方法の確認 事務局から、評価に使用する資料、評価方法について説明があった。 イ 指定管理者業務実績及び自己評価について 指定管理者から、平成30年度の文化事業、施設運営、維持管理及び収支決算などについて、実績及び自己評価についての説明があった。 ウ 行政評価について 評価表に基づき、事務局から行政評価について、要点の説明があった。</p> <p>(2) 指定管理者へのヒアリング 委員から指定管理者に対する質疑及び評価内容(評価する点、更なる取組を期待する点)の説明を行った。</p> <p>《質疑》 委員 登竜門シリーズ全23公演の出演者数の延べ人数と実人数は。 指定管理者 コンビも1名として数えて、延べ人数は44名、実人数は32名。</p> <p>《評価内容の説明》 「I文化事業①」について 【評価する点】 ・大衆芸能の本質的な魅力を顕在化し、後世に継承することにより、市民生活の向上を図るという原点を意識した企画を進めている。</p>

- ・客層の違いに配慮しながら「横浜にぎわい寄席」「名作落語の夕べ」「こども寄席」など多様な企画公演を展開している。
- ・区民優待デーやシリーズ券の販売等の工夫により、入場者数が増えている。
- ・にぎわい会員の新規登録者数を年間で3,801人獲得し、新たなにぎわい座の顧客が増えたことは非常に喜ばしい。
- ・寄席体験プログラムや学校プログラムは横浜市独自の取組として今後に期待したい。

【更なる取組を期待する点】

- ・新規の利用者開拓は難しい課題だが、新たな裾野を広げる意味で「大人のための寄席体験」のような事業を戦略を立てて進めてほしい。
- ・新しい顧客ニーズを把握するために、さまざまな層の市民サポーターからフィードバックを得ることが必要。
- ・数人の二つ目が出演する公演を企画し、トリネタを演じる機会を設けてはどうか。
- ・スタッフが愛着をもって活動している姿を紹介することによって、鑑賞者とのにぎわい座の意識が双方向につながることを期待する。

「Ⅰ文化事業②」について

【評価する点】

- ・電子大福帳は特色ある取組である。情報を十分に精査したうえで公開する姿勢を評価したい。
- ・チラシの配置見直しや館内装飾の変更は大変な作業だが、丁寧に対応されており来館者数の増にも寄与していると考えられる。
- ・SNS等を活用して、初心者から愛好家まで広く興味を喚起する情報提供を細やかに行っている。
- ・多彩なアウトリーチを実現し、市民と大衆芸能をつなぐ場面づくりを展開している。
- ・まちの賑わいづくりに貢献しており、相互に良い効果をもたらしている。

【更なる取組を期待する点】

- ・SNSなど広報媒体の利用にあたっては、効果検証を行うことも必要。
- ・文字による情報提供が中心であるが、Tik-TokやYou Tubeなど動画を活用したアピールも検討してほしい。

「Ⅱ施設運営」について

【評価する点】

- ・芸能ホールは稼働率が80%と高く、舞台専任スタッフの配置や見学会の実施など利用促進の取り組みの効果が出ている。
- ・携帯電話抑止装置やマナー啓発チラシの作成など、来館者の要望に対応する姿勢を高く評価する。

【更なる取組を期待する点】

- ・利用率の向上は利用者や一般市民の文化活動の促進にもつながる。施設のもつ可能性やメリットを検証し、引き続きの取り組みを期待したい。
- ・施設予約の仕組みの向上を図る必要がある。

「Ⅲ維持管理」について

【評価する点】

- ・年2回の避難訓練を火災や地震、障害者誘導など異なる内容で実施しており、非常に意味のある取組である。
- ・設備の保守点検を適切に行い、小破修繕にも速やかに対応している点を評価したい。

【更なる取組を期待する点】

- ・サービス介助士の配置を早急に対応してほしい。
- ・経年劣化による施設の不具合については、ビル全体の運営管理責任者や市と情報共有を行い、トラブルを未然に防ぐ取組が引き続き必要である。

「Ⅳ収支」について

【評価する点】

- ・自主事業収入と雑入が予算額を超えており、自主事業は1350万円ほどの黒字である。魅力ある事業が行われた成果として評価できる。

【更なる取組を期待する点】

- ・光熱水費や修繕費は今後も増加傾向にあるので、それを踏まえた予算計上が必要。
- ・芸能ホールの有料入場者率を56%と考えると、まだ伸ばすことが可能だと考える。

「総括」について

- ・以上の評価と期待を踏まえたうえで、大衆芸能の魅力あふれる公演の実施や貸館利用の促進、地域や教育との連携などの取組により、大衆芸能の拠点としての存在感を示し、市民生活に浸透して行ってほしい、等の総括があった。

3 まとめ

本日の委員会で確認した内容を踏まえ、各委員は評価シートを改めて清書し、事務局で調整の上、委員会の最終評価内容としてまとめることとする。